

福島県立図書館  
東日本大震災福島県復興ライブラリー

# ブックガイド

No. 9 2014.6.21

## ■福島第一原発事故

### 福島から問う教育と命

中村晋・大森直樹／共著 岩波書店 2013.8 372.126/ナ138

福島の高校教諭が共に俳句や文芸誌を創るなどしながら、3.11後の生徒たちのぶつけどころのない怒りや不安の声に触れ、福島での教育のあり方を自他に問うています。また、現地調査を続けてきた教育学者が、原発事故後の教育区域の設定や教育活動を認める条件などを記した公文書など、当時の教育行政について検証しています。当時の声や動勢を拾う貴重な資料といえるでしょう。

## ■各組織の震災対応

### ご先祖さまも被災した 震災に向きあうお寺と神社

小滝 ちひろ／著 岩波書店 2014.1 LS185/K5/1

東日本大震災では、多くのお寺や神社も被災しました。この本では、震災後、そうしたお寺や神社がどのような道を歩んできたのかが描かれています。著者はいわき市出身の新聞記者で、長い間寺社の取材を担当してきた人物です。政教分離の壁によってお寺や神社などの宗教施設には公的支援がほとんど望めないなかで、被災したお寺や神社、そこにつとめる僧侶や神職の思いや覚悟、復興への取り組みが紹介されています。

### 無形民俗文化財が被災するということ : 東日本大震災と宮城県沿岸部地域社会の民俗誌

高倉 浩樹／編 新泉社 2014.1 386.123/地141/

モノとは異なる、祭や年中行事といった形のない文化財が被災したとき、何をもって復興と言えるのか、また、その復興とは地域社会にどういった意味をもたらすのかを、宮城県沿岸地域を中心に調査・分析した民俗誌です。震災前の暮らしに目を向けると、地域住民の葛藤や想いが見えてきます。震災後の地域社会と無形文化財との関わりや、向き合い方の変化に気づかされる一冊です。

## ■復興 防災

### 防災ピクニックが子どもを守る! : 災害時に役立つサバイバル術を楽しく学ぶ

MAMA-PLUG／編・著 KADOKAWA 2014.2 369.3/ワ142/

東日本大震災後、防災の意識は高まっています。しかし、万全に準備したつもりでも、実際にやってみて初めて分かることはたくさんあります。体験してみて、困ったり失敗したりすることで、本当に必要な備えを考え、子どもには自分で考え乗り越える経験をさせられます。まずは非常食を持って、子どもと一緒にピクニックに出かけることから始めてみては。難しく構えるよりも、身近な、楽しいことから体験し、試行錯誤する防災のすすめです。

## ■復興 防災

希望の教育：持続可能な地域を実現する創造的復興教育

文部科学省創造的復興教育研究会／著 東洋館出版社 2014. 3. 11 370. 4/㍻ 143

未曾有の震災から3年。未だ、津波による被害や原子力発電所の事故による影響等の厳しい状況の中で、自らが復興に貢献しようと立ち上がった子供たちがいます。本書は、その実践例を、東北の教育現場に3年間向き合った文部科学省の復興担当者が丁寧にまとめ上げたものです。福島県立安達高校の「原発事故後の困難を科学に変えるエネルギー教育」や、ふるさとを繋ぎ創り出す浪江小学校の「「ふるさとなみえ科」等、新たな教育モデルの可能性を秘めた東北の教育現場の動きを紹介しています。子供たちの逞しい姿は、私たち大人にとって希望であり、復興の行方は、この子供たちを大切に育てていくことにかかっていると強く感じます。

## ■こども向け

はしれディーゼルきかんしゃデーデ

すとう あさえ／文 鈴木 まもる／絵 童心社 2013. 11 P/ｽﾌ

東日本大震災直後、東北本線、東北新幹線、東北自動車道が不通となり、物流が途絶えました。ガソリンスタンドには残り少ない石油を求める車が長蛇の列となりました。そんな窮状の中、なんとか福島に石油を届けようとしてくれた人たちがいました。電気が通っていない磐越西線を走るためにディーゼル機関車を使い、新潟から郡山まで石油が届けられたのです。この実話をもとに、絵本が描かれました。子どもたちに伝えたい一冊です。

がんばっぺ!アクアマリンふくしま 東日本大震災から立ちなおった水族館

中村 庸夫／著 フレーベル館 2012. 2 LS480. 7/N1/1

震災によって壊滅的な被害を受けた水族館「アクアマリンふくしま」の復活までの記録です。ゴマフアザラシのくらが、避難先の鴨川シーワールドで出産をしたことは、ニュースでも取り上げられました。しかし、同じころ、水族館ではさまざまな生きものたち18万もの命が、次々と失われていたのです。この本では、震災当日から再オープンまでの約4ヶ月の間に何が起きていたのかを、率直な文章と貴重な写真で伝えています。

## ■その他

震災後文学論 あたらしい日本文学のために

木村 朗子／著 青土社 2013. 11 910. 264/㍻ 13Y

3. 11 後、震災、特に原発や放射能汚染について、作家たちが表現しにくい暗黙の空気が存在していると著者は指摘しています。そのような困難のなかで、表現者としての使命感を持って震災という出来事を直視し、熟考して書かれた作品を震災後文学と定義し、作家たちが何をどのように表現したのか読み解いています。本書は震災後文学の作品に出会う契機を与えてくれ、小説の持つ力を改めて感じるができる一冊となっています。